

2022年2月9日

住友生命保険相互会社

米州開発銀行が発行する サステナブル・ディベロップメント・ボンドへの投資について ～生物多様性に配慮した気候変動への取組みを支援～

住友生命保険相互会社（取締役 代表執行役社長 高田 幸徳、以下「住友生命」）は、米州開発銀行（Inter-American Development Bank、以下「IDB」）が発行する、生物多様性や気候変動への対応をテーマとしたサステナブル・ディベロップメント・ボンド（以下「本債券」）への投資（約100億円）を決定しました。本債券は、IDBがSDGsの目標13「気候変動に具体的な対策を」に焦点をあてて豪ドル建てで調達する初めてのサステナブル・ディベロップメント・ボンドであり、本債券の発行額の全額を住友生命が購入しました。

IDBは、ラテンアメリカおよびカリブ海諸国における民間企業への支援を通じて、同地域の経済発展に取り組む国際機関です。戦略的優先分野の1つとして気候変動と環境の持続可能性の取組みを掲げており、資金面および技術面での支援を積極的に行っています。



©IDB

気候変動と生物多様性損失は地球規模の課題であると同時に、相互に密接な関わりを持っています。IDBグループは「気候変動行動計画2021-2025」において、毎年の資金提供のうち30%以上を気候ファイナンスとする目標を設定しています。加えて、アマゾン川流域など多種多様な生物が生息するラテンアメリカ地域の特性に鑑み、生物多様性への影響をプロジェクト選別の基準の一つとして位置付けています。

例えば、中米に位置するホンジュラスでは、異常気象の影響や森林伐採、それに伴う洪水や干ばつなどのリスクが年々高まっており、2030年までに100万ヘクタールの森林再生を目指すプログラムへの支援を行っています。

【債券の概要】

発行体	米州開発銀行 (Inter-American Investment Bank)
投資金額	120百万豪ドル (約100億円)
期間	10年

住友生命は、「なくてはならない」生命保険会社の実現を目指し、事業活動を通じた SDGs の達成に向けた取組みを進めています。また、責任投資（ESG 投融資およびスチュワードシップ活動）をその主要な取組みの一つとして位置づけ、持続可能な社会の実現、および、中長期での投融資を行う機関投資家にとって運用収益の向上に資するとの認識の下、責任投資に取り組んでおり、本件への投資はその一環として行うものです。

今後も、責任投資を通じ、持続可能な社会の実現に貢献していくとともに、運用収益の向上に取り組んでいきます。

【本件を通じて貢献すると想定される主な SDGs 項目】



以上